

真摯な歯科医師を目指して

歯学部卒業生の皆さん、そして保護者のご家族の皆様、この度のご卒業を心からお慶び申し上げます。皆さんが授与された学位記は歯学部規定の学業を全て修了した証です。入学時からの多大な努力に心から敬意を表するとともに、皆さんをご支援くださった保護者やご家族の皆さま、熱心にご指導いただいた教職員の方々にも、衷心より厚く御礼を申し上げます。

また、大学院博士課程を修了して博士（歯学）の学位を取得された皆さん、新規性や独創性に優れ、各領域で学術的にも高く評価される論文を作成し、受理されるまでには大変な辛苦があったことでしょう。学位取得のために費やされた皆さんの尊い努力は、たとえ今後どのような進路を選択するにせよ、必ず明るい未来に繋がるものと確信しています。これからも日夜研鑽を重ねて、歯科医学の発展に貢献していただきたいと思っております。

さて、昨年5月に新型コロナウイルス(COVID-19)がインフルエンザと同じ5類感染症に認定され、全世界を震撼させたコロナ禍もようやく一段落し、講義や実習、課外活動も対面で行われるようになり、この鶴見キャンパスにもようやく以前の日常が戻ってきました。令和元年末からの3年半、私たちは目に見えない侵略者に怯えながら、「人流を抑制し、人との接触機会を減らす」ことを優先せざるを得ませんでした。その結果、友人との交流やクラブ活動が制限されただけでなく、コミュニケーション能力の涵養を育む臨床実習さえも縮小することになりました。結局、皆さんの大学生活の半分近くは制約の多い毎日となってしまいましたが、安全面を最優先させた苦渋の判断とどうかご理解下さい。

さて、私たち歯科医師は人が生きていく上で、きわめて重要な機能である咀嚼や嚥下、発音などが営まれる口腔の健康をサポートするために、大きな役割を果たしています。特に現在、我が国は超高齢化が加速しており、老年歯科医療の重要性が大幅に増してきています。さらに国民の歯科医療に対するニーズは高度化、多様化しており、口腔インプラント治療や再生歯科医療、デジタル歯科治療や周術期歯科医療などに対しても大きな期待が寄せられています。このように歯科医療を取り巻く環境は大きく様変わりしており、国民のQoLを力強く下支えする歯科医師の役割が改めて高く評価されてきています。これからの日本の歯科医療を担っていく皆さんには、ぜひ多角的な視点を持ち、笑顔あふれる健康長寿社会の実現に向けて研鑽を積んで頂きたいと思っております。そして、国民から信頼される「真摯な歯科医師」になってもらいたいと願っています。

一昨年前に歯学部は創立50周年記念式典を開催しましたが、本年は総持学園が創立100周年を迎えます。学園が大きな節目を迎えるこの年に卒業される皆さんには、ぜひ鶴見大学歯学部同窓生の一人としての自信と矜持を持っていただきたいと希望します。そして、建学の精神をいつまでも宿しながら、患者さんや社会から信頼され、尊敬される真摯な歯科医師になれることを心から祈念して、私からの祝辞とさせていただきます。

ご卒業誠におめでとうございます。

令和6年3月14日
歯学研究科長・歯学部長
大久保 力廣

